小学校 × 体育

体育どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 5項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

1〜4年は「遊び」の要素を取り入れ、運動名でなく身に付けたい「動き」を軸に示す

小学校1〜4年は、「遊び」の要素を取り入れた学習として整理し直す方向です。具体的な運動のやり方ではなく、身に付けたい「動き」を軸に示す方向です。公正や協力などの態度は、「運動との関わり方」として知識や技能を中心に教える方向です。保健は、身近な生活を中心とした健康・安全の基礎を実践的に学びます。体育は2年間のまとまりで計画することを基本とする方向です。

どこが変わる？現行⇔次期（小学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

公正・協力・責任などの態度の位置づけ

現行

「学びに向かう力、人間性等」の中に、愛好的な態度と並んで公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全の態度が位置付けられている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

これらは「**運動との関わり方**」として「**知識及び技能**」を中心に整理し直す方向。愛好的な態度は「運動やスポーツの**多様な楽しみ方を目指す態度（仮称）**」として「学びに向かう力」に残す。

P268　P269　※現行と改善イメージの対比図は資料編m3 P204（保体⑯）

体育の12年間の時期の分け方

現行

小1〜4「各種の運動の基礎を培う時期」、小5〜中2「多くの領域の学習を経験する時期」、中3〜高3「卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期」。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

4年ごとの区切りは保ちつつ、小5〜中2を「多くの領域の運動を経験し**スポーツの基礎に触れる時期**」、中3以降を「卒業後も運動やスポーツに**多様な楽しみ方で豊かに関わる**ことができるようにする時期」と再整理。小1〜4は「**遊び**」の要素を取り入れた学習に。

P265 P268 P270 ※系統性の改善イメージ図は資料編m3 P202（保体⑭）

学習指導要領での運動の示し方

現行

「○○（運動）では、XXをする」のように、具体的な運動を限定して示していると読み取れる部分があり、教師・子ども双方の負担になる面がある。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

小4までは具体的な運動のやり方を示すのをやめ、身に付けたい**「動き」を軸**に示す方向。小5以降も運動や種目の**示し方を柔軟に**する方向で検討。各領域は**2年間のまとまり**で計画的に学ぶ。

P272 P61 ※現行の課題の記述は資料編m3 P210（保体㉒）

保健の学校段階ごとの学び方

現行

小学校「身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容」、中学校「個人生活における健康・安全に関する内容」、高校「個人及び社会生活における健康・安全に関する内容」のスパイラル構造。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

小学校は「身近な生活を中心とした」内容を**実践的に**、中学校は「個人生活を中心とした」内容を**科学的に**、高校は個人及び社会生活の内容を**総合的に**学ぶ系統に再整理。健康・安全の「**概念**」と「**それに関わる原則**」をスパイラルで深める。

P265 P268 ※保健の系統性の改善イメージ図は資料編m3 P203（保体⑮）

体育・保健の「見方・考え方」

現行

体育は、運動やスポーツを価値や特性に着目し、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること（92字）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

体育は、運動やスポーツを心身の充実に果たす役割や**多様な楽しみ方**の視点から捉え、自他の豊かな生活と活力あふれる**社会づくりにつなげる**こと。全学校種で1つにそろえ、短く分かりやすく示す。

P267 ※現行と改善案の文案は資料編m3 P192（保体④）。本文P267は改善の方向性のみ

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの小学校の体育の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **体育編**
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編

学習指導要領の本文

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

もっとくわしく

体育の変更点（くわしく） **新旧比較（全校種）** **小学校の先生へ**
資料室（小学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。**P○** は本体PDFのページ、**資料P○** は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。